

ちびもぐら

大阪 六年 麻保

十月十四日の日曜日は、子どもだいこでした。

十月七日と十三日に、都留弥神社の境内で、たいこ台に乗って子供会のみんなで練習しました。特に十三日は、何回も練習をやらされて大変でした。

その日、朝から私はのがいたくてしゃべるのも、食べるのもしんどかった。でもたいこだけは、今年最後だから絶対やりたかったので、集合時間より早い七時五十分には、はっぴを着て、都留弥神社へ行きました。子どもも大人も、もういっぱい集まっていました。

それからも続々と人が集まってきました。子どもは走り回って、大人はみんな、かたまりになってしゃべっていました。私は、まだかまだかと、気合を入れて待っていました。はっぴの着方が左右間違っている子には、注意してやりました。

八時になりました。代表のおっちゃんも、
「おほらいするから、みんな集まれー。」

と大声を出しました。みんなが境内の神殿の前にぞろぞろと集まりました。白いヒラヒラの紙がついた棒を持った神主さんが出てきました。みんなが頭を下げてる前で神主さんが、シャカシャカと音を立てて棒をふりました。

おほらいが終わると大人たちは、お酒を飲んだり、たいこ台にお酒をかけたりました。子どもたちは、またバラバラになりました。

それからいよいよとりの前にあったたいこ台が出ることになりました。最初に乗る子は、もうえぼしをかぶっていました。

えぼしというのは、たいこをたたく子が頭につけるぼうしみたいな赤いかざりです。たたみみたいなのが入っていて、約三十cmぐらいの大きさです。長く垂れ下がった先に、すずがついています。

秋祭りはいこ台に乗る子が少ないので、役員の人たちが話し合つて、私は十一時十五分に、布施警察のうらのガレージから乗つて、自分の分団も合わせて、続けて四つの地域を乗ることになっていました。乗るまでに時間があったのとしんどかったのとで、私はいったんお母さんと家に帰ることにしました。

家でねているとお母さんに、「十一時になった」と起こされました。お母さんと、布施警察のうらのガレージへ行きました。たいこ台の係のおっちゃんがえぼしをくれました。えぼしは自分では結べなかったので、お母さんに頭にタオルをまいてもらつてつけてもらいました。時間が近づくにつれ、係のおっちゃんやおばちゃんも集まってきました。私といっしょに乗る遠山と、砂本と、新井も来ました。私は、もらったミルクティーを飲みながらたいこ台が来るのを待ちました。

線路の方から、たいこの音と、たいこ台を引っぱる「おーたー、おーたー」の音がして、たいこ台がやってきました。たいこ台がガレージにつきました。たいこ台が止まると、引っぱっていた子たちが一せいに、ジュースに飛びつきました。私も飲みかけのミルクティーを飲みました。

休けいが終わって、私と、遠山と、砂本と、新井の四人でたいこ台に乗りました。いつもとはちがつてはっぴを着ているし、えぼしもつけているから緊張しました。

たいこ台の係のおっちゃんが、

「まずは『祝儀』。」

と言いました。『祝儀』というのは、祭りにお金を出してくれた家の前で行います。

おっちゃんが、

「せーの。」

と言いました。

その声が続けて、私たちとたいこ台を引っぱる人みんなで声を出します。そして私たちがたいこを打ちます。

「さあ、うちましょ。」

ドーン ドーン

「もうひとつせつ。」

ドーン ドーン

「いおうて、三度。」

ドーン ドーン ドン

「めでたいなあ。」

ドーン ドーン

「ほんぎまり。」

ドーン ドーン

たいこ台はゆっくり動き始めました。

初めはゆっくりだったけど、だんだん早くなりました。

たいこ台が動いている間は、『流し』をしました。

初めにたいこが、

ドーン ドーン ドン と打ちます。その後、

ドン ドン ドン

ドン ドン ドン

ドン ドン ドン と打って、

ドン ドン と打つ時に、私たちも引っぱる人もみんなで、

「おーたー、おーたー」と声を出します。

この『流し』をずっとくり返しました。

たいこ台の上はゆれましたが、夏の時よりもみんなおとなしく引っぱってくれてる感じがしました。みんなより高いところからみんなが引っぱってくれるのを見ると、とてもいい気分でした。

引っぱる人と、横を歩く人と、後ろからついて歩く人と、大人も子どもも、たくさんの人といっしょに行きました。

たいこ台は、布施警察のうらから、西荒5、三の瀬商店街、西荒3西荒ノと回っていききました。私は三の瀬商店街を回っていったん下りましたが、次の西荒3のところまでついて歩いて、パチンコ屋の前でまたたいこ台に乗りました。

道のせまいところに行くとき、引っぱる係のおっちゃん達が子どもたちを止めて、おっちゃん達が物にぶつからないように引っぱってくれ

ていました。それでも木の枝が私たちが乗っているたいこ台にも入ってきたり、かざりに当たったりしました。

私の向かいでたいこをたたいている新井が、大きな声で、

「おーたー、おーたー」と言いました。ちよつとムカツと来たので私も新井の声に負けじと、

「おーたー、おーたー」と大きな声を出しました。二人で、

「おーたー、おーたー」と言い合いをしながら、たいこをたたきました。

たまに、「おーたー、おーたー」とたいこがずれました。そんな時はたいこの係のおっちゃんが、「おっ。」とか、「えいっ。」とか言うってくれたので、たいこ声はそれ以上ずれないで、またもどりました。

三十分以上、『流し』を何回もやって、ずっと大声を出したので、私はへとへとなりました。やっと最後の交代の荒川公園の一つ北側の信号のところに着きました。役員のおっちゃんや次に乗る子がもう待っていました。たいこの係のおっちゃんが、

「交代。」

と言いました。

私は、すぐにたいこ台からおりました。ずっといっしょについて歩いてくれたお母さんが、

「お疲れ。」

と言ってくれました。しんどかったので私は、そのまま家に帰りました。

声を出しすぎて、その日の夜私は、熱を出しました。



(指導 増田俊昭)